

## コロナの谷間に流れる フルートの調べ

新型コロナの影響で4カ月休館していたコミュニティセンター湘南。7月の再開を待っていた『フルート愛好会』は毎週土曜の夜、練習を再開した。  
『小鳥のさえずり、といわれる明るく澄んだフルートの音色が館内に流れる。』

### 『フルート愛好会』4カ月ぶり演奏

「本当に長かった。家で独りでも吹けますけど、仲間と一緒にやるのとは楽しさ、張り合いが違います」。昭和63年に立ち上げたフルート愛好会の代表・根岸清美さんに笑顔が戻った。

石井和夫さん、重田憲良さんとは30年前、茅ヶ崎市海岸にあった県立青少年会館での「フルート教室」で出会った。石井さんがフルートを始めた動機は「小さくて持ち運びができる楽器だから」、重田さんは「女の子にもてたくて…。今はボケ防止のためにやっている」とうそぶくのも、ようやく普通の練習ができるようになったから。



マスク付きフルートで演奏する鈴木さん

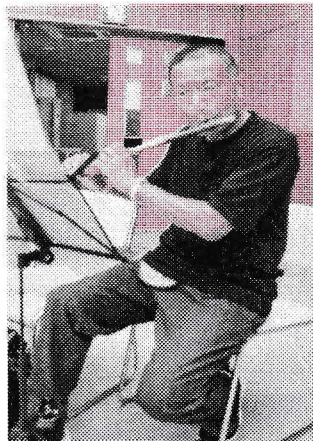
### 『フルートマスク』考案

鈴木市男さんもまた、社会人になって初めてフルートを手にした。自宅待機中に頭の中を駆け巡ったのはコロナ対策。飛まつ防止のため譜面台の上に立てるボードを作り、音が出る頭部管に布を被せる『フルートマスク』を考案した。鈴木さんに勧められ愛好会入りした飯野節子さんも驚く熱中ぶりもまた、練習再開への準備だった。

### 届けたい安らぎのハーモニー

この5人と同じ茅ヶ崎市内に住む女性と、指導者・北嶋則宏さんが加わればフルメンバー。北嶋先生は月に1度、東京・北千住から電車で片道2時間かけてフルートを教えに来ていたが、コロナ不安でストップしたまま。また、北嶋先生との縁で毎年夏、銀座・山野楽器で開催されるフルートのイベントに出演しているが、今年はコロナのために中止となった。老人ホームなど施設での慰問演奏もできない状態が続く。

「多くの方にフルートの魅力を伝えたい。アンサンブルでハーモニーを楽しんでもらいたい」が根岸さんたちの願い。レパートリーはクラシックから童謡まで50曲以上。平和が戻り、愛好会の思いが通じる日はそう遠くないはずだ。



フルートを始めて37年の石井さん



④フルート愛好会の代表・根岸さん⑤ソーシャルディスタンスを保ちコミセン湘南での練習



### 『負けられない』人を応援

確か5月だった。ラジオで男性パーソナリティーがこんな話をしていた。

—コロナの心配もあり田舎の母に電話をしたところ、反応がワンテンポ遅れ元気もない。どうしたの？と聞くと、毎週1回行っていた地域のコミセンが休館になって、仲間と一緒に過ごす機会がなくなった、と言う—

コミセン湘南を再開して以来、予想を上回る多くの方にご利用いただいている。中には『ラジオのお母さん』と同じ体験をした人もいるだろう。出口の見えないコロナ禍、こんな時だからこそ何ができるか。コミセンの意義、あり方をあらためて考えさせられます。

(後藤金蔵コミセン湘南会長・談)



## お待たせ！コミセン湘南7・1再開

新型コロナの影響で3月1日から休館（4月1、2、3日のみ開館）していたコミュニティセンター湘南が4カ月ぶりに再開。初日の7月1日には47人の利用者が訪れた。受付には感染予防のビニールシートを張り、館内出入りにはマスク着用、消毒液での手洗いを義務化。さらに利用責任者には参加者の健康チェック、各室使用後は接触部分の拭き掃除、報告書提出をお願いした。子どもの家（わくわくらんど）も同時に再開。記録的な長梅雨の後は猛暑となった中、快適と安全を求めて多くの子どもたちがやってきた。

## フェイスシールド越しに「ロン」

【エアープラッツ】コミセン湘南再開を「待ってました！」と13人のマージャン仲間が集合。①検温②消毒③マスクがコロナ禍でのマナーだが、まずはパイの1枚1枚、点棒の1本1本をアルコールで拭く。そして一斉に被ったのがフェイスシールド。田波さんによるとネットで見つけ購入したそうで、さらに競技中は「楽しいおしゃべりもダメ」の厳しいルールを自ら作った。マージャン禁止の公共施設もあり「これくらいは当然。頭の体操、指の運動にもなるのですから」と毎週1回、完全防備で卓を囲んでいる。



## 2班制、組手なしで「3密、回避

【聖風会】空手（松濤館流）を習っている子どもの母親から「体力を持て余しているみたい。早く再開してほしい」の声を聞いた石黒代表は思案。限られた時間、場所内でソーシャルディスタンスをとるために小1から一般まで18人いる会員を2班に分けた。無級から5級が前半、4級以上を後半にすれば少人数での稽古となる。また、相手との接触を避けるために組手は中止、基本・型をじっくり教えることにした。「コロナ感染に注意を払い、礼節を重んじる稽古に励んでいます」と石黒さん。

## 少人数で消毒徹底、換気にも注意

【健康吹矢研究会】筒から飛び出した矢が的に当たった点数を競う。当然、マスクはできない。窓を開けて換気、普通6人が横に並んで吹くところを4人に、練習時間の短縮、的の設置・収納は専任者が、椅子は1人1脚と決め使用後に徹底消毒一を励行。肺機能活性化につながり全国に10万人の愛好者がいるそうだが、今年度の大会は全て中止となった。同会の代表で全国大会での優勝経験もある市川さんの心境は「もうひとつモチベーションが上がらない」だが、「仲間と一緒に練習する場所があるってことは、大変ありがたいです」。



## スマホなんて怖くない！

【初めてのかんたんスマホ講座】今年3月に予定されていたがコロナ禍で延期、5カ月遅れての開催。8月7日の1回目の参加者は16人（女性6人）。ソフトバンクの講師がスマートフォンの基本操作から地図検索、カメラ・ビデオ撮影、メールの方法を説明。アドバイザーが直接指導した。柳島の男性は「昨年11月にガラケーから切り替えたが難しくてね。使い方を覚えれば確かに便利」。この日の模様は8月11日夜のJ:COM「つながるNEWS」で放送され、28日に2回目の講座を行った。



【あとがき】コミセン湘南が4カ月間閉館したため「瓦版夏号」は休刊。秋号で再開後のコミセンの様子、各グループの活動を紹介しました。が、3月5日に予定していた「地域の歴史を知ろう—旧藤間家住宅」の最終回、現地見学は宙に浮いたまま。講座参加者から「打ち切りにしないで最後までやって」の要望があるため。あれもこれもコロナのせい、いまいましい。